

● 病床確保計画の改定（見直し）のポイント

① 確保計画最大設定病床数

- ・現在の確保病床数を基本に「最大確保病床数」を設定

2,021床（重症病床221床（大阪コロナ重症センター含む）軽症中等症病床 1,800床）

- ※変異株の動向に注視し、更なる感染拡大に備え、最大設定病床数（2,021床）を超える病床確保にも取り組む（新たに重症病床の整備を行う医療機関への支援等）

② 病床運用フェーズ毎の設定病床数と移行基準

- ・各受入病院から提出のあったフェーズごとの計画病床数の総数を基本に病床数を設定
- ・第3波の感染拡大状況を踏まえフェーズ`移行基準を設定

※今後、国の動向を踏まえ、病床確保計画は必要に応じて適宜見直しを検討

病床確保計画（重症） 改定内容

【改定内容】※赤字：3/10見直し箇所

- 各受入病院から提出のあった計画病床数の総数を基本にフェーズ毎の病床数を設定（フェーズ4-2の設定病床数には「大阪コロナ重症センター」30床含む）
- 第3波での実績から、感染拡大期に1日平均4人程度の入院患者数増の発生を見込み、フェーズ移行の準備期間も踏まえ移行基準を設定

	設定 病床数	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況・ <u>病床運用率</u> から総合的に判断)
フェーズ1	<u>75床</u>	<u>重症患者数およそ30人以上（設定病床数の40%以上）</u> ⇒フェーズ2 移行準備
フェーズ2	<u>110床</u>	<u>重症患者数およそ45人以上（設定病床数の40%以上）</u> ⇒フェーズ3 移行準備
フェーズ3	<u>150床</u>	<u>重症患者数およそ105人以上（設定病床数の70%以上）</u> ⇒フェーズ4 移行準備
フェーズ4	<u>180床</u>	<u>重症患者数およそ130人以上（設定病床数の70%以上）</u> ⇒ <u>フェーズ4-2移行準備</u>
<u>フェーズ4-2</u>	<u>221床</u>	—

- 大阪コロナ重症センターについては、当面の間、感染収束期は5床から10床の運用とし、感染拡大に応じて最大30床まで運用
- 更なる感染拡大に備え、新たに重症病床を整備する医療機関に支援する等、221床を超える病床確保について、あわせて取組む

病床確保計画（軽症中等症） 改定内容

- 各受入病院から提出のあった計画病床数の総数を基本にフェーズ毎の病床数を設定
- 第3波での実績から、感染拡大期に1日平均30～40人程度の入院患者数増の発生を見込み、フェーズ移行の準備期間も踏まえ移行基準を設定

※赤字：3/10見直し箇所

	設定 病床数	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況・ 病床運用率 から総合的に判断)
フェーズ1	700床	軽症中等床患者数およそ280人以上（設定病床数の40%以上）⇒フェーズ2移行準備
フェーズ2	1,000床	軽症中等症患者およそ400人以上（設定病床数の40%以上）⇒フェーズ3移行準備
フェーズ3	1,200床	軽症中等症患者およそ840人以上（設定病床数の70%以上）⇒フェーズ4移行準備
フェーズ4	1,500床	軽症中等症患者およそ1,050人（設定病床数の70%以上）⇒フェーズ4-2移行準備
フェーズ4-2	1,800床	—

- 更なる感染拡大に備え、各医療機関との調整を進め1,800床を超える病床確保にもあわせて取組む
- 緊急時を想定した病床の準備等についても検討を行う

宿泊療養施設 改定内容

- 第3波での確保実績を踏まえ、部屋数等を設定（療養者受入のためのホテルの準備期間は2週間程度）
- 宿泊施設については、その確保及び稼働に一定期間要することなど運用上様々な制約があるため、フェーズの移行については、療養者数の増加に対して早い段階での移行が必要

	設定 部屋数	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況から総合的に判断)
フェーズ1	800室	療養者がおよそ240人以上⇒フェーズ2移行準備
フェーズ2	1,600室	療養者がおよそ800人以上⇒フェーズ3移行準備
フェーズ3	2,400室	—

病床運用にかかる府の考え方と病床逼迫時の対応

● 病床運用にかかる方針と医療機関への共有の徹底

入院調整を円滑にするために、以下の2点について医療機関と病床運用方針の共有を徹底

○軽症中等症については、退院基準が発症日から10日が基本であることを考慮し、
1日当たりの受入患者数は基本1割以上（10床未満は一人以上）とする

○休日・夜間についても、基本受入体制を整える
（重点医療機関・協力医療機関については、休日・夜間の患者受入が指定要件）

● 病床逼迫時の対応（病床運用上の取扱い）

第3波の際に緊急要請等を実施した事項について、次の感染拡大期に備えルール化を図る

【重症病床】

○病床運用率が概ね85%程度となる等、受入病院での新規受入が困難となる場合

▶ 軽症中等症患者受入病院（一定規模以上の公立病院等に限る）に対し、
当該病院の受入患者で重症化した場合、当該病院において治療継続を要請

【軽症中等症病床】

○病床運用率が概ね85%程度となる等、受入病院での新規受入が困難となる場合

▶ 軽症中等症患者受入病院に対し、患者受入に際しやむを得ず休床とした病床を活用し
更なる病床確保を要請

● 緊急時の対応

○緊急時を想定した病床の準備等についても検討を行う

※ **新たな病床確保と併せ、これらの対応により更なる感染拡大に対応できるよう取組む**